11月22日　　ミカ書2章12～13節

「私たちはひとつになる」

今日の聖書個所は小預言書と呼ばれる書物の一つ、ミカ書が選ばれています。ここに記されているのは、バビロン捕囚によって囚われてしまったイスラエルの民が戻ることができ、新たにされたイスラエル王国へと「一つになることができる」という預言です。

「この土地を与える」と神様に言われていて、その事を信仰のよりどころにしていた彼らイスラエルの民にとって、捕囚とはより大きな意味で「信仰的な屈辱」を味合わせる出来事でした。そこで、神殿と国を失ったイスラエルの民は、神殿に寄らない形での信仰を模索しました。その結果として、律法と会堂での礼拝を中心にした、今のユダヤ教のような形の信仰が成立しました。

バビロン捕囚の中でなお信仰を燃やし新しい信仰を確立したイスラエルの民のように、私たち江刺教会が所属する日本キリスト教団も、戦争という逆境の中で成立しています。戦争の影響が終戦によって薄れ、宗教団体法から現在の宗教法人法へと移行していく中で、「一致した信仰告白が必要だ」という動きが始まり、今私たちが礼拝の中で使っている日本基督教団信仰告白が成立しました。

要旨裏面にあります教団信仰告白をご覧ください。最初に示されているのは、旧新約聖書以外に正典を持たないことと、聖書が「ただ人間が書いた書物」ではなく「神の霊感によりて成った」「神の言葉」であり「信仰と生活との誤りなき規範」、そこに間違いはないという信仰が示されています。これは、神様の御心に「誤りがない」のであって、それを受け取る私たちはいつも御心と照らし合わせながら、ただ鵜呑みにするのではない慎重な読み方を心掛ける必要があります。

そして、続く部分では三位一体という言葉を使いながら、父なる神・子なる神・聖霊なる神の在り方を告白し、その神様と私たち人間の関係が示されています。私たち人間が生まれながらに「神様だけに従うことが出来ない」という罪の中にいることを受けとめ、そんな私たちを選んで救おうとしてくれた神様の恵み深さと、その為に十字架にかかってくれたイエス様の神様への誠実さによって私たちの罪が赦されていることを示しています。

そのすべての愛を受けとめるために必要なのが悔い改めによって至る洗礼・バプテスマであり、神様の愛と約束をいつまでも思い起こすために行っているのが聖餐であり、そしてそのすべてを多くの人々に広めるために用いられているのが「教会」である、その事がここで示されています。これらの言葉によって、日本キリスト教団の一つ一つの教会は、各教会として独立していながらも、「一つの教会」として同じ方向を向き続けることが出来るのです。

今日のミカ書の言葉は、バビロン捕囚の、戦争の中にいるイスラエルの民に対して、「あなたを牧場の群れのように一つにする」と、あなたたちが国に帰ることが出来る日が必ず来る、「主はその先頭に立たれる」と、大きな希望を語る言葉でありました。その言葉に、どれほど多くの人が励まされ、強められ、また前を向くことが出来るようになったのでしょうか。

私たちもまた、どのような時も、時が良くても悪くてもイエス様のことを証しし続け、平和を愛する心のもとに一つになるときが来ることを、希望をもって願い続けたいと思います。イエス様の誕生によって始まった、そしてそれが預言された旧約聖書の時代からすでに始まってた、神様の愛の業を、私たちも共に担い続けていきましょう。

今日の説教箇所：ミカ書２章12～13節

・12:ヤコブよ、私はあなたがたをことごとく集め　イスラエルの残りの者を必ず呼び集める。　私は彼を囲いの中の羊のように　牧場の群れのように一つにする。　それは人の騒ぎとなる。打ち破る者が彼らに先立って上り　彼らも打ち破って門を通り、外に出る。　彼らの王は彼らの前を進み　主はその先頭に立たれる。

【日本キリスト教団信仰告白】

我らは信じかつ告白す。

旧新約聖書は、神の霊感によりて成り、キリストを証し、福音の真理を示し、教会の拠るべき唯一の正典なり。されば聖書は聖霊によりて、神につき、救ひにつきて、全き知識を我らに与ふる神の言にして、信仰と生活との誤りなき規範なり。

主イエス・キリストによりて啓示せられ、聖書において証せらるる唯一の神は、父・子・聖霊なる、三位一体の神にていましたまふ。御子は我ら罪人の救ひのために人と成り、十字架にかかり、ひとたび己を全き犠牲として神にささげ、我らの贖ひとなりたまへり。

神は恵みをもて我らを選び、ただキリストを信ずる信仰により、我らの罪を赦して義としたまふ。この変らざる恵みのうちに、聖霊は我らを潔めて義の果を結ばしめ、その御業を成就したまふ。

教会は主キリストの体にして、恵みにより召されたる者の集ひなり。教会は公の礼拝を守り、福音を正しく宣べ伝へ、バプテスマと主の晩餐との聖礼典を執り行ひ、愛のわざに励みつつ、主の再び来りたまふを待ち望む。

我らはかく信じ、代々の聖徒と共に、信徒信条を告白す。

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人のうちよりよみがへり、天に昇り、全能の父なる神の右に坐したまへり、かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまはん。我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交はり、罪の赦し、身体のよみがへり、永遠の生命を信ず。アーメン。